

母なる地球

— 今、創世記に聞く —

カルロス・メステルス

フランシスコ・オウロフィーノ 著

佐々木 治夫

訳

『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物すべてを支配せよ。』(創1:28)

同じような言葉は聖書の他の箇所にも見られます(知10:1・2 シラ17:1・4 参照詩8:7)。これらのテキストの誤った解釈によって、わたしたちはすべてを支配する権利と、自然の資源を自由に使える許可を神からもらっているかのように行動しています。わたしたちの家である地球は、単なる商品のように軽視されているのです。これは、多くの人の中に、他人を搾取しようとする欲望を膨らませ、利己的強欲を生み出したのです。その結果は自然すべての均衡の破壊です。わたしたちは宇宙、自然という、わたしたちの起源との触れ合いを失いました。・・・もう、誰であるかも分かりません。わたしたちは歴史を知っていると言いますが、それはつかの間のことで、二十世紀、三十世紀以上のものではありません。わたしたちの家である地球だけでも、四十五億年以上も経っているのです。

本文から



A5判 151頁 税込 1,050円(本体 1,000円)

ISBN978-4-86211-078-7

著者・訳者紹介

カルロス・メステルス
カトリック司祭。一九三一年オランダ生まれ。一九四九年ブラジルへ移民。ローマ・カルメル会国際神学院を卒業、神学博士号を取得。一九六三年ブラジルに帰国。各地の神学校やカトリック大学で教え、聖書学習センターの所長を長年に渡って勤めてきた、ブラジルが世界に誇る聖書学者の一人

フランシスコ・オウロフィーノ
ブラジル人で聖書学習センターの理事の一人。リオデジャネイロ州ノーバ・イグアス教区のパウロ六世研究所で聖書神学を教えている。

佐々木 治夫

一九三〇年浜松生まれ。一九五五年、カトリック司祭の叙階を受ける。一九五六年、上智大学大学院神学科卒業。一九五八年ローマからの要請で、ブラジルの日系人司牧のためブラジルへ派遣される。現在、サンジェロニモ・ダ・セーラにあるフマニタス慈善協会の理事長として、ハンセン病と皮膚科一般の患者への奉仕と日系人への福音宣教に従事され、貧困農家の子弟のための農業学校、麻薬アルコール依存症者の更生施設、貧しい女性のための授産所を運営し、また、土地なし農民の土地取得運動等への支援を行っている。